



に育てなければならぬといへます。」

「それが日本の子ごもで」

「さうです。子ごもだからといふよりも、日本人の心のもちまへを、ほんたうにもたせるために、子ごもの時からといつた方が正しいでせう。」

「やさしいようで、むづかしいことで」

「さうです。ほんたうにさうです。それには、さうするかうすると申すより、私達おとなが、ほんたうに、清く明い心もちでなければなりませんから。子ごもの心のもちまへは、清く明いのが本来ですが、それを濁らせ、かげを興へるのはおとなの心です。識らずくの間ね。だから、むづかしいのです」

「ほんたうに」

「完全にさういふ心になることは、なか／＼むづかしいことです。せめて、子ごもの前に語る言葉、見せる行ひの中には、妙に複雑だつたり、變に不透明だつたりすることのないように、氣をつけたいものです。つまり、うそや、うらおもてや、ごまかしや、つくろひごまや、さういふこと

ないように」

「それが、なか／＼」

「さうですが、子ごもの心にすなほに接してゐれば、私達の心も、おのづとさうなつて來るといふこともあります。さうならすにゐられないといへませう。」

「それでは、子ごもの方から教育されますことまで」

「ごつちだつていゝでせう。ごつちも日本人なのです。その時、眞に日本人の心のもちまへになり得てゐる方から、すなほに、その心もちを受けとればいゝでせう」

「つまり、すなほといふことに互になるのでございませうね」

「さうです。ほんたうに清く明い互の心になりあふのです。さういふことが常に行はれてゐれば、子ごもはいよ／＼清く明い心のもちぬしになります」

「なんだか分りました」

「日本の親が日本の子ごを、日本人の心のもちまへにするのですもの、なにも理窟はありませぬね」

とお母様の手製のものでなければなりません。

従來の様に既成の幼児服が手軽に購入出來た時代にはこれがなか／＼實行がむづかしい様でありましたが今日こそは實際問題として、これを實行するのに最もよき機會であります。

ことに幼児の非常時服用装について、それ／＼家庭のお母様方の方で考へられてゐる事でありませうが、これが一日も早く實行されたいのであります。ことに女兒の服装については男兒の服装よりもよほど研究の餘地がある様であります。少くとも普通のスカート式のものでは一朝事ある時には身體を包む役が出來ないのであります。國民學校の女生徒たちが甲斐／＼しくモンペ姿で通學する様子を見ても、是非とも幼児用のものも工夫されて一日も早く實行されたいのであります。

洋服のみならず、帽子、上靴などの附屬品なども持ち合せの材料をもつて、各家庭で自家製作品によつて幼児の防空服装の用意を充分にせられんことをおすゝめする次第であります。